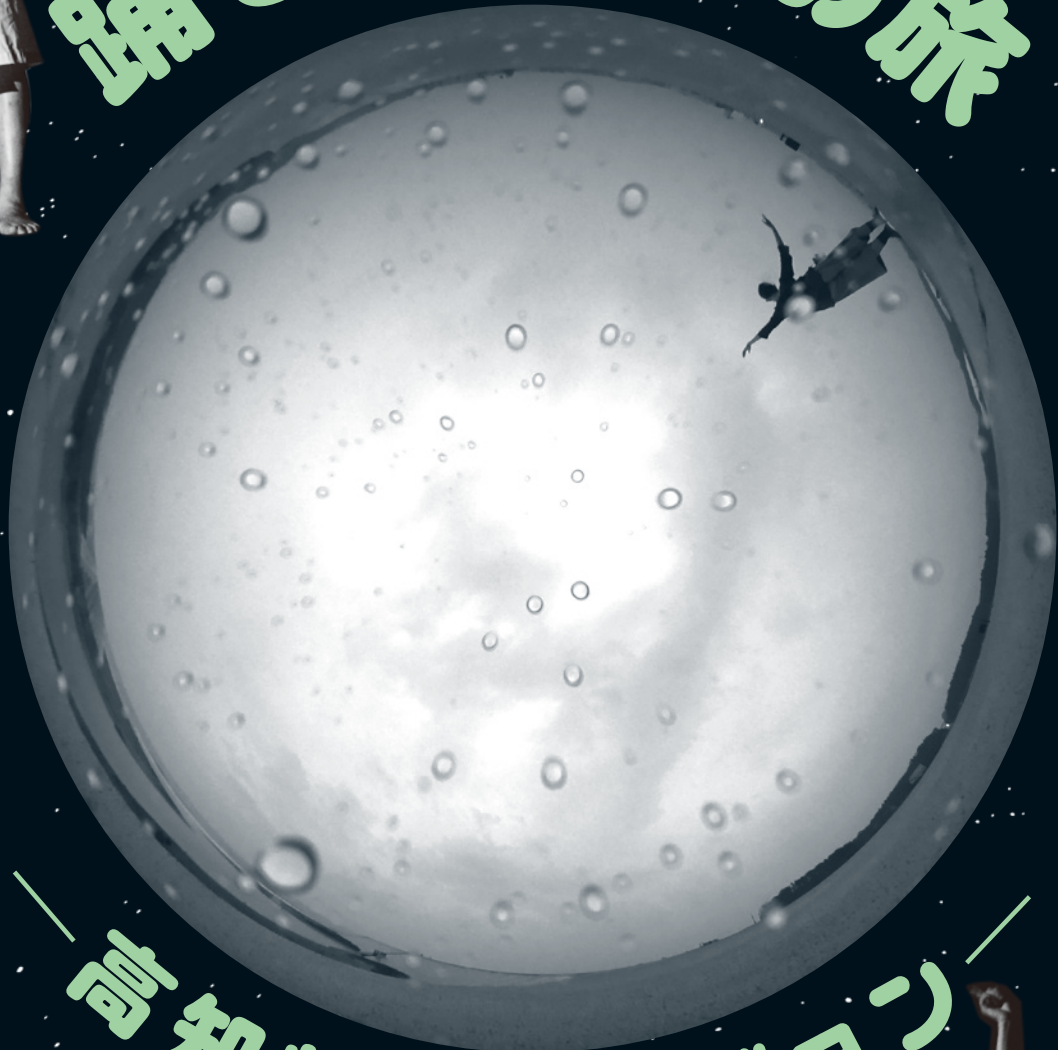


SAIKO KINO
Lecture - Performance

2023年12月22日(金) 18時30分〜、23日(土) 10時30分〜
高知みらい科学館 プラネタリウム

踊る？宇宙の旅



宇宙と身体はつながっている？
星取県鳥取と高知をつなぐレクチャーパフォーマンス

高知特別バージョン

鳥取大学地域学部附属芸術文化センター

木野彩子

Space
Odyssey
(with dance?)





木野彩子(きの・せいこ)

ダンサー、振付家。札幌生まれ。横浜ソロメデュオコンペティション2003で横浜市文化振興財団賞を受賞後、2004年文化庁在外研修で渡仏、ダンサー、振付家としてイギリスで活動したのち、2016年より鳥取大学地域学部附属芸術文化センターに所属。現在、舞踊の霊性について調査研究を行いながら、教職と舞踊家の二足のわらじを履く。アーカイブ資料を用いて、パワーポイント、映像、写真資料、言語を用いた講義と実演、場合によっては観客の体験を含むレクチャーパフォーマンスという手法を用いて、大学教員としての知と芸術活動の両立を目指している。高知での公演は2018年高知美術館中庭での「みみをすます」以来2回目。生きることが全てダンスとなりつつある最近。https://saikokino.jimdofree.com

踊る？宇宙の旅 高知版

宇宙と身体はつながっている？

星取県鳥取と高知をつなぐレクチャーパフォーマンス

日時：2023年12月22日（金）18時30分開演、12月23日（土）10時30分開演

会場：高知みらい科学館 プラネタリウム

(〒780-0842 高知県高知市追手筋2-1-1 オーテピア5F ☎TEL088-823-7767)

定員：82名

【予約制】11月18日（土）から科学館申込専用電話 ☎088-824-8222 にて受付。

(※空席があれば、当日発券もあり。)

料金：大人500円、高校生300円、小中学生100円、未就学児無料

(通常のプラネタリウムと同料金でご覧いただけます。未就学児でも座席を利用する場合にはチケットが必要になりますので、お気をつけください。)
※プラネタリウム年間パスポートも利用できます。

構成・出演：木野彩子

プラネタリウムオペレーション、解説：前田雄亮（高知みらい科学館 学芸員）

音響：国府田典明

プラネタリウム映像制作：宮部勝之

プラネタリウムに乗って宇宙の旅に出てみましょう。月、火星、天の川。何気なくみている星々ですが、人間は遥か昔から神話や伝説を通じて星と生命を重ね合わせてきました。地球の中では人間が作り出していると思いがち。でも人間もまた一つの生命に過ぎず、また素粒子のかたまりに過ぎないのです。一つ一つの生命は、物質は、かけがえがなく、また影響を与えあって存在しています。ダンスとは本来この細胞、DNAに眠っている138億年の宇宙の記憶を辿り、蘇らせるような行為だったのではないのでしょうか。だからダンスは文字の生まれる前から、戦争や大洪水や感染症の蔓延など様々な危機を乗り越え途切れることなく続いているのです。私たちはこの身体からしか考えることはできません。身体から一緒に考えてみましょう。この身体で、ライブでなければできないこととは何でしょうか。ダンスはどこへ向かうのでしょうか。

主催：キノコノキカク、高知みらい科学館

後援：鳥取大学地域学部附属芸術文化センター

企画協力：公益財団法人ダンス・ニッポン・アソシエイツ、NPO法人ダンスアーカイブ構想

映像・写真協力：国立天文台4次元デジタル宇宙プロジェクト(4D2U)、米子市児童文化センター、鳥取大学医学部染色体工学研究センター、鳥取大学電子顕微鏡サークル、電子顕微鏡のまち・米子市推進協力会

本公演はダンスフェスティバル「Dance New Air2020→2021」(2021年11月港区立みなと科学館)で上演された『ダンスハ體育ナリ?其ノ三 2021年踊る?宇宙ノ旅』を高知のプラネタリウムに合わせて再構成するものです。

『ダンスハ體育ナリ?』とは

2016年開始のレクチャーパフォーマンスシリーズ。『其ノ一:体育教師シテノ大野一雄ヲ通シテ』(初演2016年)では明治期からの「女子体育」と呼ばれる舞踊教育の歴史を、『其ノ二:建国体操ヲ踊ッテミタ』(初演2018年)では幻の東京オリンピック(1940)後に愛国心や体力向上のため広まった体操と大衆文化(主に舞踊)の禁止を扱いました。表現の自由やオリンピックなど時事問題を取り入れながら再演を続けています。高知版ではからくり半蔵(細川半蔵、江戸時代の天文学者。『機巧図彙』を著し、からくり人形の設計をおこなったことで知られる)にあやかり、ロボットについて考えてみます。生身の人間とロボットの違いとはなんでしょうか。生身でなければできないこととはなんでしょうか。

『踊る?宇宙の旅』とは

ダンサーであり振付家、大学教員でもある木野彩子はその土地に合わせ作品を改訂しながら上演を続けているレクチャーパフォーマンスです。それぞれの土地にまつわるお話を取り込み、各土地の「星」を見つける作品として全国を回っています。この作品はダンスフェスティバル「Dance New Air2020→2021」(2021年11月港区立みなと科学館)で上演された『ダンスハ體育ナリ?其ノ三2021年踊る?宇宙ノ旅』を2021年東京都港区(木野の祖父母の暮らし)、2022年鳥取県米子市(星のまち米子と電子顕微鏡)での公演を経て、高知の内容を含めて再構成をしています。

高知の星スポット:プラネタリウムと一緒に展示もぜひご覧ください。

高知みらい科学館のプラネタリウム

2018年オープンで5周年を迎えたオーテピア。同館のプラネタリウムは五藤光学研究所の光学式投映機「オルフェウス」とデジタル映像システム「バーチャリウムX」を使用しています。これは米子市児童文化センターと同じ機種、兄弟ということでも今回の企画が実現しました。五藤光学研究所創業者の五藤齊三さんは高知県安芸市出身です。実は99人以下規模のプラネタリウムの年間観客数は全国1位(平成30年度から4年連続)。高知の皆さんに親しまれているプラネタリウムです。

コナツトハンター 関勉さん

高知県高知市上町在住の天文学者。これまでに6個の彗星と223個の小惑星を発見、90歳代になられる現在も芸西天文台にて講座を開講しています。高知みらい科学館には彗星を発見した当時使用していたお手製の望遠鏡も展示されており、関さんのような多くの人のさまざまな工夫や粘り強い観測に支えられて、天文学は日々進化を重ねているのです。関さんは発見した小惑星を高知にゆかりのある名前をつけていることもあり、「Kochimirakagaku」(高知みらい科学館より命名、小惑星番号12690)もあります。2022年高知県名誉県民として顕彰されましたが、まさしく高知の星です。